

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月28日現在

機関番号：10101

研究種目：新学術領域研究

研究期間：2008～2012

課題番号：20101002

研究課題名（和文） 国際秩序の再編

研究課題名（英文） Restructuring of the International Order

## 研究代表者

岩下 明裕（IWASHITA AKIHIRO）

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：20243876

## 研究成果の概要（和文）：

ユーラシアの主要アクターである露中印の存在が国際社会に与える影響の深度と広がり进行分析し、翻って国際社会がこれら「地域大国」とともにどのような新秩序を形成していくかを展望した。成果はこれを単なる露中印の「地域大国」外交研究にとどめることなく、「国際秩序の再編」なるテーマの下、秩序側が露中印の挑戦を主体的にどのように受けとめ、それをどのように無視、牽制、包含するのか、という分析にまで踏み込んだことにある。

## 研究成果の概要（英文）：

The results of this research project was to analyze the influences that great powers in Eurasia such as Russia, China and India have on the international community, and to review the kind of new order that the international community will form with these regional powers. It did not simply look into the diplomatic strategies of those three countries, but also shed light on how the existing world order tackles the challenge offered by the Eurasian powers.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	7,600,000	2,280,000	9,880,000
2009年度	16,600,000	4,980,000	21,580,000
2010年度	21,100,000	6,330,000	27,430,000
2011年度	20,700,000	6,210,000	26,910,000
2012年度	16,600,000	4,980,000	21,580,000
総計	82,600,000	24,780,000	107,380,000

研究分野：総合人文社会

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：冷戦史 外交 国際関係 ユーラシア

## 1. 研究開始当初の背景

(1)ロシア、中国、インドの3カ国をユーラシアの「地域大国」として国際関係及び対外政策の領域で比較・相関する研究プロジェクトはこれまで皆無であった。

(2)ユーラシア「地域大国」の国際関係を、米国の外交やグローバルな世界秩序のなかで総合的に位置づけようとする本格的な試みもこれまでなされることはなかった。

## 2. 研究の目的

(1)ユーラシアの主要アクターであるロシア、中国、インドの存在が国際社会に与える影響を測り、国際社会による「地域大国」に対する反応を検証することで、形成途上にある新秩序を展望する。

(2)米国を始めとする国際秩序を主導する側がこれら「地域大国」の挑戦をどう主体的に統合していくのかについて分析する。

### 3. 研究の方法

- (1)「冷戦後世界」という文脈でロシア・中国・インドを位置づける際、冷戦期と冷戦後の秩序の相違及び変化の文脈で三国の位相を検討する。
- (2)三国それぞれに関し、外交研究や現在研究のみならず冷戦史研究についてもトップクラスの業績を有する、デイビッド・ウルフ(ロシア)、石井明(中国)、吉田修(インド)のメンバーを中心にこれを行う。ロシア、中国、インド三国の比較・関係研究は、冷戦史研究の先端をいく米国でも稀であり、本申請が学界に貢献する明確なポイントの1つである。
- (3)冷戦後国際秩序を「主語」として分析を行う場合、最重要な米国の動向を追う。ユーラシアの地域大国が地域内外でどのような行動をとろうと、その諸国自らが絶えず、米国の存在や反応を強く意識し、米国の一挙一動を観察しながら外交を行っている。
- (4)日本の米国外交研究者による側面支援のもと、ワシントンのブルッキングス研究所、ケナン研究所、ジョージタウン大学などの関連センターや研究所との共同研究を実施する。

### 4. 研究成果

- (1)日本国際政治学会でパネルを組織することを通じて、露米印の研究者が一同につどい、対外政策の相関・比較などを総合的に論議する場を初めて作った(2009年・2010年)。
- (2)ブルッキングス研究所やワシントン東西センターの米国シンクタンク及び中国シンクタンクとの協働により、ユーラシア「地域大国」外交の相関・比較を米国との文脈で検討するとともに、国際的な広がりて研究を遂行した。
- (3)特にインドに関しては、インドのロシア、中国研究者などを短期(3ヶ月程度)国際公募で招請し、南アジアの国際関係にかかわる研究が日本で発展することに寄与した。
- (4)代表者・分担者及び本研究チームが核となった研究会の積み重ねにより、ユーラシア「地域大国」外交による成果が2013年度に刊行される。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 53 件)

- ①ウルフ デイビッド, スターリンと汎アジア主義, アジア主義は何を語るのか(松浦正孝編, ミネルヴァ書房), 2013, 査読無, 562-583.
- ②Toru Ito, "China Threat" Theory in Indo-Japan Relations, *India-Japan Relations in Emerging Asia* (Takenori Horimoto and Lalima Varma eds.,

Manohar), 2013, 113-131.

- ③岩下明裕, グローバル・ユーラシア, ユーラシア世界 5 国家と国際関係(塩川伸明他編, 東京大学出版会), 2012, 査読無, 43-65.
- ④岩下明裕, 国境から世界を包囲する, 日本の「国境問題」: 現場から考える(岩下明裕編, 藤原書店), 2012, 査読無, 6-21.
- ⑤岩下明裕・伊藤薫, 中露国境交渉の今: ヘイシャーズ島から考える, 境界研究, 3号, 査読有, 2012, 135-146.  
[http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicn/japan\\_border\\_review/no3/07iwashita.pdf](http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicn/japan_border_review/no3/07iwashita.pdf)
- ⑥石井明, 日本と西独を競わせる: 周恩来の戦略的国交正常化外交, 世界, 835号, 2012, 査読無, 125-129.
- ⑦中居良文, 党政分離の政治過程: 中ソ比較の試み, 中国共産党のサバイバル戦略(菱田雅晴編, 三和書籍, 2012, 査読無, 271-330.
- ⑧伊藤融, インドの「世界大国化」と対パキスタン関係, 現代インドの国際関係: メジャー・パワーへの模索(近藤則夫編, アジア経済研究所), 2012, 査読有, 105-131.
- ⑨岩下明裕, 国境と戦争: 北緯 50 度からみた「平和」, 平和文化研究, 32 集, 2011, 査読無, 3-22.
- ⑩岩下明裕, 北方領土「不法占拠」と「固有の領土」の呪縛をどう乗り越えるか, 別冊世界, 816号, 2011, 査読無, 79-86.  
<https://www.iwanami.co.jp/sekai/2011/ex/816/079.html>
- ⑪ウルフ・デイビッド, サハリン - 樺太の1905年、夏: ローカルとグローバルの狭間, 日露戦争とサハリン島(原暉之編著, 北海道大学出版会), 2011, 査読無, 397-414.
- ⑫中居良文, 中国政治の時間: Path Dependent Process としての党大会, 学習院大学法学会雑誌, 47巻, 2011, 査読有, 101-143.
- ⑬Yoshifumi Nakai, Japan's Perspective on U.S.-China-Taiwan Relations, *The Future of United States, China, and Taiwan Relations* (Cheng-yi Lin and Denny Roy, eds., Palgrave: New York), 2011, 査読無, 189-208.
- ⑭伊藤融, 地域協力の鍵を握るインド: SAARC、環インド洋、BIMSTEC, 南部アジア 1(山影進・広瀬崇子編, ミネルヴァ書房), 2011, 査読無, 252-272.
- ⑮Akihiro Iwashita, New Geopolitics and Rediscovery of the U.S.-Japan Alliance: Reshaping "Northeast Asia" beyond the Border, The Brookings Institution, Center for Northeast Asian Policy Studies, 2010, 査読無, 1-29.  
[http://www.brookings.edu/~media/Files/rc/papers/2010/09\\_northeast\\_asia\\_iwashita/09\\_northeast\\_asia\\_iwashita.pdf](http://www.brookings.edu/~media/Files/rc/papers/2010/09_northeast_asia_iwashita/09_northeast_asia_iwashita.pdf)
- ⑯岩下明裕, ボーダースタディーズの胎動, 国際政治, 162号, 2010, 査読有, 1-8.
- ⑰石井明, 中国の琉球・沖縄政策: 琉球・沖

縄の帰属問題を中心に、境界研究, 1号, 2010, 査読有, 71-96.

[http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicn/japan\\_border\\_review/no1/05\\_ishii.pdf](http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicn/japan_border_review/no1/05_ishii.pdf)

⑱石井明, 1950年代の中国外交再考: 革命支援・平和共存・ハンガリー事件, 現代中国研究, 27号, 2010, 査読無, 34-49.

⑲David Wolff, "Open Jaw: A Harbin-centered View of the Siberian- Manchurian Intervention, 1917-22," *Russian History*, 36, 2009, 査読有, 339-359.

<http://www.ingentaconnect.com/content/brill/ruhi/2009/00000036/00000003/art00002>

⑳伊藤融, 大国化するインドにおける多国間主義の動揺: 現代「実利」外交の展開, 東アジアの国際関係: 多国間主義の地平 (大矢根聡編, 有信堂高文社), 2009, 査読無, 123-140.

[学会発表] (計 51 件)

①David Wolff, Stalin's Geopolitics of Revolution: The Role of Peninsulas, Workshop on "Southeast Asia, Northeast Asia and the Cold War," 2013年3月4日, Thammasat University, Thailand.

②Akihiro Iwashita, Debunking myths about the Japan-Russia territorial dispute, Northern Territories, 2013年2月19日, Finnish Institute of International Affairs, Helsinki.

③Toru Ito, Approach to Indian Diplomacy: How to Establish Alternative IR Rooted in India, Annual Convention of the Indian Association of International Studies, 2012年12月10日, India International Center, India.

④石井明, 南シナ海・東シナ海問題についての若干の考察, 国際ワークショップ「新たな環境下におけるベトナム・中国二回廊一経済圏」, 2012年2月21日, ベトナム社会科学院中国研究所, ベトナム・ハノイ.

⑤Akihiro Iwashita, Eurasia Border Dynamics: Lessons from Inland Cooperation for Maritime Dispute Resolution, 防衛研究所シンポジウム「ユーラシアのエネルギー移送と経済的連関」, 2012年1月16-17日, インド防衛研究所 (IDSA), New Delhi, India.

⑥Akihiro Iwashita, Eurasia Border Review and Japan, バルダイクラブ 中国・ロシアセッション会議, 2011年12月3-4日, East China Normal University, Shanghai, China.

⑦Akihiro Iwashita, Northeast Asia As a Part of Eurasia, アジア太平洋フォーラム 2011, 2011年11月28-29日, Russian International Affairs Council, Moscow, Russia

⑧Akihiro Iwashita, Bordering Northeast Asia: Japan as a Multi-borderlands Space, 国際地理学会 (IGU), 2011年11月16日, The Liberator Bernardo Ohiggins Military School, Santiago, Chile.

⑨David Wolff, Stalin and Pan-Asianism: The Peoples of Asia are Looking to You with Hope, The 5th International Symposium, "Alliances and Borders in the Making and Unmaking of Regional Powers" 2011年7月8日, 北海道大学スラブ研究センター, 札幌市.

⑩Naomi Chi, Akihiro Iwashita, Visualizing Borders: Museum Exhibition at Hokkaido University, シンポジウム「都市の紛争」, 2011年5月21日, Queens University, Belfast, Northern Ireland.

⑪伊藤融, グローバル化するインド外交: 「世界大国」を目指して, アジア政経学会東日本大会, 2011年5月21日, 獨協大学, 草加市.

⑫David Wolff, Stalin and the Redrawing of Soviet Asian Borders, Conference on "L'URSS et la deuxième guerre mondiale" 2011年5月5日, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, France.

⑬Osamu Yoshida, World Bank and India Consortium, Seminar on India and the Cold War: Historical and Contemporary Perspectives, 2010年12月18日, Nehru Memorial Museum and Library and Jawaharlal Nehru University, India.

⑭David Wolff, The Perils and Cures of Military History, Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies, Annual Conference, 2010年11月20日, Westin Bonaventure Hotel, Los Angeles, USA.

⑮吉田修, 開発援助の始まり: インド, コロンボ・プラン, 世界銀行, 日本国際政治学会研究大会, 2010年10月31日, 札幌コンベンションセンター, 札幌市.

⑯伊藤融, グローバリゼーションと格差国際政治学の視点から, 日本南アジア学会, 2010年10月3日, 法政大学多摩キャンパス.

⑰Akihiro Iwashita, Eurasia's perception on borders, European Conference of the Association for Borderlands Studies (ABS), 2010年9月23日 - 25日, Stegi Grammaton Kai Tehnon, Veroia, Greece.

⑱David Wolff, Russia's Great War and Revolution: Eastern Perspectives, ICCEES VIII World Congress, 2010年7月29日, Stockholm City Conference Centre, Uppsala, Sweden.

⑲Akihiro Iwashita, Northeast Asian Quadrangle US-China-Russian triangle and Japan, 北東アジア政策研究所ワークショップ, 2010年3月8日, The Brookings Institution, Washington DC., U.S.A.

⑳岩下明裕, 日米中ロ「四角形」: 今後のシナリオ, 日中ユーラシア対話, 2010年1月11日, 国务院発展研究センター欧亜社会発展研究所, 北京, 中国.

[図書] (計 13 件)

①Wolff, David, ed., Slavic Research Center,

Hokkaido University, *Eurasia Border Review Special Issue "China's Post- Revolutionary Borders, 1940s- 1960s"*, 2012, 175.

<http://borderstudies.jp/achievements/public3/ebrs.htm>

②ウルフ デイビッド, 北海道大学スラブ研究センター, 同盟と国境: 地域大国を規定するもの, 2012, 33.

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/publications/no08/contents.html>

③岩下明裕編著, 藤原書店, 日本の「国境問題」: 現場から考える, 2012, 368.

④Akihiro Iwashita, ed., Slavic Research Center, Hokkaido University, *India-Japan Dialogue: Challenge and Potential*, 2011, 42.

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/publications/no06/contents.html>

⑤藤原書店編集部編, 岩下明裕他著, 藤原書店, 「日米安保」とは何か, 2010, 149-162.

⑥藤原書店編集部編, 岩下明裕他著, 藤原書店, 「沖縄問題」とは何か: 「琉球処分」から基地問題まで, 2010, 95-106.

⑦和田春樹編, ウルフ デイビッド他著, 岩波書店, 東アジア近現代通史2, 2010, 69-92.

⑧西原正・堀本武功編, 伊藤融他著, 亜紀書房, 軍事大国化するインド, 2010, 99-117.

⑨川崎信文・森邊成一編, 吉田修他著, 成文堂, 道州制: 世界に学ぶ国のかたち, 2010, 119-141.

⑩中居良文編著, お茶の水書房, 台頭中国の対外関係, 2009, 187.

[その他]

ホームページ等

[http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/group\\_01/index.html](http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/group_01/index.html)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岩下 明裕 (IWASHITA AKIHIRO)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号: 20243876

### (2) 研究分担者

石井 明 (ISHII AKIRA)

東京大学・名誉教授

研究者番号: 10012460

伊藤 融 (ITO TORU)

防衛大学校・国際関係学科・准教授

研究者番号: 50403465

吉田 修 (YOSHIDA OSAMU)

広島大学・大学院社会科学研究所・教授

研究者番号: 60231693

ウルフ デイビッド (WOLFF DAVID)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号: 60435948

中居 良文 (NAKAI YOSHIFUMI)

学習院大学・法学部・教授

研究者番号: 80365072